

# 一般社団法人日本地震工学会 第3回社員総会議事録

1. 日時：平成24年5月24日（木）13時30分から19時00分
2. 場所：建築会館ホール（東京都港区芝5丁目26番20号）
3. 総社員総数：1,256名
4. 出席社員数：704名
5. 出席代表理事（会長） 川島一彦  
出席理事（平成23年度理事・監事）  
川島一彦、運上茂樹、若松加寿江、芳村 学、澤本佳和、矢部正明、東 貞成、  
大谷章仁、佐藤俊明、渡壁守正、高橋 徹、鹿嶋俊英、木全宏之、永野正行  
出席監事 河村壮一  
出席理事（平成24年度理事）  
当麻純一、福喜多 輝、矢代晴実、富田孝史、松田 隆、田村敬一
6. 議長：代表理事（会長）川島一彦
7. 議事録作成：理事・渡壁守正、理事・永野正行

## 【I】 講演会ならびに贈呈式（13時30分～15時25分）

社員総会議案に先立ち、基調講演、平成23年度各賞の贈呈式および記念講演が行われた。司会は事業担当理事・木全宏之が担当した。

### 1. 基調講演

「今後懸念される巨大地震」と題して、東京大学名誉教授の阿部勝征先生が講演された。

### 2. 平成23年度功績賞、功労賞、感謝状の贈呈式

受賞者は以下のとおりである。

功績賞：正会員・武村雅之、法人会員・独立行政法人防災科学技術研究所

功労賞：正会員・中村孝明、鹿嶋俊英、盛川 仁

感謝状：法人会員・東京電力株式会社、東北電力株式会社、中部電力株式会社、  
日本原子力発電株式会社

### 3. スペシャルアドバイザー委嘱式

委嘱対象者は以下のとおりである。

名誉会員・小谷俊介、後藤洋三

正会員・瀬尾 和大、岩楯 徹広、田蔵 隆、北浦 勝、小川 雄二郎、  
泉 博允、佐伯 光昭、中山 学、中田 慎介、尾上 篤生

### 4. 論文賞および論文奨励賞の贈呈式および記念講演

論文奨励賞および論文賞の贈呈式・記念講演が執り行われた。司会は学術担当理事・高橋 徹が担当した。受賞者、論文名は以下の通りである。

論文賞：正会員・石川 裕、奥村俊彦、藤川 智、宮腰淳一、藤原広行、森川信之、  
能島暢呂、「確率論的地震動予測地図の検証」

論文奨励賞：正会員・秦 吉弥、「経験的サイト増幅・位相特性を考慮した2008年岩手・宮城内陸地震における河道閉塞地点での地震動の評価」  
正会員・西川 隼人、「2008年岩手・宮城内陸地震における一迫、衣川震度観測点のフーリエスペクトルと応答スペクトルの推定」

## 【Ⅱ】第3回社員総会（15時35分～18時05分）

### 1)議長選任の経過

定刻に至り司会者、理事・澤本佳和は開会を宣し、平成24年度第3回社員総会は一般社団法人日本地震工学会定款第3章第14条～第18条により、定足数を満たしたので有効に成立する旨を告げた。また、議長については定款第17条により代表理事・川島一彦会長があたることを宣言した。続いて川島一彦議長（以下、議長）から挨拶の後、議案の審議に入った。

### 2)議事経過

議長のもと以下の議案に基づき審議が行なわれた。

## 第3回社員総会 議案

### 第1号議案 平成23年度事業報告

議長は、第1号議案について理事・澤本佳和に内容を説明させた後、議長はこれを議場に諮ったところ、満場異議なく議決した。

### 第2号議案 平成23年度収支決算報告・平成23年度監査報告

議長は、第2号議案について理事・東 貞成に内容を説明させた後、続いて監事・河村壮一から会計に関する書類は、綿密に調査したところ、法令に照らしいずれも妥当であることを認めた旨の報告がされた。議長はこれを議場に諮ったところ、満場異議なく議決した。

### 第3号議案 平成24年度理事の選任

議長は、第3号議案について内容を説明した後、これを議場に諮ったところ、以下の理事、監事の選任について満場異議なく議決した。

理事・加藤研一（小堀鐸二研究所）

理事・清野純史（京都大学）

理事・田村敬一（土木研究所）

理事・当麻純一（電力中央研究所）

理事・富田孝史（港湾空港技術研究所）

理事・福喜多輝（清水建設 技術研究所）

理事・松田 隆（大林組 技術研究所）

理事・矢代晴実（東京海上日動RC）

任期：平成24年5月24日～平成26年5月31日

これによって、理事・運上茂樹、澤本佳和、東 貞成、佐藤俊明、鹿嶋俊英、木全宏之、山中浩明、庄司 学は任期満了により退任となることの報告がなされた。（就任期日：平成22年5月20日から退任期日：平成24年5月24日）

議長より平成24年度理事会構成が成立した旨報告がなされた。

### 第4号議案 平成24 年度選挙管理委員会委員の選任

議長は、第4号議案について内容を説明した後、議場に諮ったところ、以下の選挙管理委員

会委員選任を満場異議なく議決した。

- 正会員・岡野 創（鹿島建設）
- 正会員・佐藤俊明（清水建設 技術研究所）
- 正会員・渡壁守正（戸田建設 技術研究所）
- 正会員・渡辺和明（大成建設）

#### 第5号議案 平成24年度役員候補推薦委員会委員の選任

議長は、第5号議案について内容を説明した後、議場に諮ったところ、以下の選挙管理委員会委員選任を満場異議なく議決した。

- 正会員・新井 洋（国土交通省国土技術政策総合研究所）
- 正会員・川口 淳（三重大学）
- 正会員・坂田弘安（東京工業大学）
- 正会員・澤本佳和（鹿島建設 技術研究所）
- 正会員・田蔵 隆（富山県立大学）
- 正会員・野畑有秀（大林組 技術研究所）
- 正会員・佐藤 健（東北大学）
- 正会員・幸左賢二（九州工業大学）
- 正会員・高田 一（横浜国立大学）
- 正会員・矢部正明（長大）

#### 第6号議案 平成24年度事業計画

議長は、第6号議案について理事・矢部 正明に内容を説明させた後、議長はこれを議場に諮ったところ、以下の質疑応答があった。

質問：平成24年度事業計画で説明された「地震災害対応委員会」と「3学会地震被害調査連絡会」の違い、および「国際化対応委員会」と「国際委員会」の役割分担の違いがよく分からない。

議長：「地震災害対応委員会」は学会内部での組織として活動、「3学会地震被害調査連絡会」は、他学会との連携組織としての活動である。「国際化対応委員会」では全体方針を打ち出し、「国際委員会」では16回地震工学会議誘致活動や海外への情報発信を見据えた英文WEBページの準備など、より具体的な作業を進める。

質問：JAEEとIAEEとの関係はどうなっているのか。

議長：日本にIAEE事務局を置くメリット、サポート体制、明確な位置づけなど議論していきたいと考えている。

これらの質疑応答の後、満場異議なく議決した。

#### 第7号議案 平成24年度収支予算

議長は、第7号議案について理事・大谷章仁に内容を説明させた後、議長はこれを議場に諮ったところ、会場から以下の質問があった。

質問：第8号議案の公益社団法人への移行を踏まえた収支予算であれば、第8号議案を先に議決すべきではないか。

これを受け議長は、第7号議案の議決前に、第8号議案について理事・矢部 正明に内容を説明させることとした。第8号議案の議決後、再び第7号議案を議場に諮ったところ、以下の質

疑応答があった。

質問：企画事業費用支出が昨年度と比べて厳しい、基本的な考え方は個々の事業収支バランスさせた計画となっていると考えてよいか。

理事・大谷章仁：その通りである。

以上の質疑を受けたのち、議長はこれを議場に諮ったところ、満場異議なく議決した。

#### 第8号議案 公益社団法人への移行について

議長は、第8号議案について理事・澤本佳和に内容を説明させた後、これを議場に諮ったところ、以下の質疑応答があった。

質問：公益社団法人への移行によって会計監査が厳しくなり事務負担が増大することになるのではないか。

鳴原事務局長：現在も公益社団法人と同等の監査を受けているので、多少の変更はあるが、比較的スムーズに移行できると考えている。

以上の質疑を受けた後、議長はこれを議場に諮ったところ、満場異議なく議決した。

#### 第9号議案 名誉会員の推挙

議長は、第9号議案について内容を説明した後、これを議場に諮ったところ、以下の2012年新名誉会員の推挙が満場異議なく議決した。

2012年新名誉会員 工藤一嘉氏、大町達夫氏、濱田政則氏 以上3名。

その後、若松副会長により名誉会員の推挙式が執り行われた。

#### 3)「東日本大震災を受けての日本地震工学会の提言」発表

正会員・東畑郁夫を委員長とする広域・システム災害対応特別委員会で検討を行ってきた提言「地震被害の軽減と復興に向けた提言－東日本大震災を受けて－（案）」が発表された。これに関し、以下の質疑応答があった。

質問：マスコミとの信頼を築くことは、地震工学の広報として非常に重要なことであり、意見交換会などの積極的な活動を考えるべきではないか。

議長：学会活動の広報の一環として、記者との懇談会などマスコミへの情報提供や情報交換をより積極的に行っていきたい。

質問：国内、国際的な経済状況に言及していただきたい。産業、企業に向けての提言も必要ではないか。

東畑委員長：日本の技術レベルの高さをアピールし、海外からの国内誘致を検討している企業に安全・安心を発信できるような提言を盛り込みたい。

議長：会社も広い意味で国民である。防災を産業として取り組むことも重要である。ぜひ提案の原案づくりに協力いただきたい。

質問：防災教育に関する提言も明記すべきではないか。

東畑委員長：学校教育のみならず、家庭内での防災教育をも視野に入れた提言としたい。

質問：国と地方自治体は必ずしも同じではない。地方自治体に対しては国への提言とは違う表現にならないか。

東畑委員長、議長：行政といった表現もありうるが、何でもかんでも行政という表現が必ずしも良いというものではない。

質問：東日本大震災の教訓を基に海外向けの提言があってもよいのではないか。

東畑委員長：現在計画している報告書の英文化、発展途上国へ向け、地震国向けの提言もありうると考えている。

現状の提言は案であり、会場から頂いた意見を提言に適切に反映することを条件に東畑委員長に一任頂くことが議長より提案され、満場異議なく議決した。

以上ですべての議案の審議を終了し、18時05分に平成24年度一般社団法人日本地震工学会第3回社員総会を閉会した。

### 【Ⅲ】懇親会（18時10分）

通常総会終了後、建築会館ホールにて懇親会が開催され、会員相互の交流が図られた。

上記議事を明確にするため、代表理事の川島一彦議長がこの議事録に署名押印する。

平成24年5月24日

一般社団法人日本地震工学会第3回社員総会

議長代表理事

川 島 一 彦

